



東海道五十三次  
府中(ふちゅう)

府中は大御所・家康が築いた城下町である。  
駿遠でも最大規模を誇った宿場の繁栄はそのま  
いままに受け継がれ、立派な現代都市となつて  
どこかおどろとしたこの街は藤原氏の「返倉」の  
出身地でもある。



徳川家康が少年期  
と晩年を過ごした府  
中は東海道の「膝栗  
毛」の着座「返倉」の  
生誕地でもあり、東海道  
とは縁の深い土地であ  
る。  
現在の静岡市は駿河  
国の国府が置かれた  
ところから「駿府」とい  
は「府中」と呼ばれた。  
時代以降は宿場の呼  
称として「府中宿」とな  
った。

現代的な商店街繁  
華のわたりはのんびり  
して上品である。  
府中には大政奉還後  
徳川慶喜も約三年  
間隠棲した(浮月楼)  
「まん好きて隠居した  
わけではなかつた」  
この地にはどこか大物  
が悠々自適で余生を  
過ごす場所といった  
處がある。



駿府城跡に立つ徳川家康銅像

駿府公園  
天正三年(一五八五)徳川  
家康が築成した駿府城の  
跡地を公園にしたもの。  
一九八九年に榎櫓が復原さ  
れた。  
「名物のうまもの」  
あへかわ餅・うまさ餅  
桶ずし